

予算決算審査委員会 総務産業分科会報告書

平成26年10月22日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

総務産業分科会
主査 田 原 隆 雄

平成26年10月22日に分科会を開催し、次の議案を審査したので議事録を添えて報告する。

記

| 案 件 | 備 考 |
|--|-----|
| 議案第80号 平成25年度備前市一般会計歳入歳出決算の認定について中、 総務産業分科会所管部分 | — |

《 分科会記録目次 》

| | |
|-------------|----|
| 招集日時・出席委員等 | 1 |
| 開会 | 2 |
| まちづくり部関係の審査 | 2 |
| 閉会 | 34 |

予算決算審査委員会 総務産業分科会記録

| | | | | |
|-------|----------------|---------|-----------|------|
| 招集日時 | 平成26年10月22日（水） | | 午前9時30分 | |
| 開議・閉議 | 午前9時30分 | 開会 ～ | 午後1時52分 | 閉会 |
| 場所・形態 | 委員会室A・B | 閉会中 の開催 | | |
| 出席委員 | 主査 | 田原隆雄 | 副主査 | 川崎輝通 |
| | 委員 | 山本恒道 | | 尾川直行 |
| | | 掛谷 繁 | | 西上徳一 |
| | | 山本 成 | | |
| 欠席委員 | なし | | | |
| 遅参委員 | なし | | | |
| 早退委員 | なし | | | |
| 列席者等 | 議長 | 田口健作 | | |
| 傍聴者 | 議員 | 守井秀龍 | 立川 茂 | 森本洋子 |
| | | 星野和也 | | |
| | 報道 | なし | | |
| | 一般 | なし | | |
| 説明員 | まちづくり部長 | 高橋昌弘 | シカ・イノシシ課長 | 松山忠義 |
| | 産業振興課長 | 丸尾勇司 | まち営業課長 | 下山 晃 |
| | まち計画課長 | 平田惣己治 | まち整備課長 | 坂本基道 |
| | 水道課長 | 梶藤 勲 | 下水道課長 | 藤森 亨 |
| | 日生総合支所長 | 星尾靖行 | 吉永総合支所長 | 森本和成 |
| 審査記録 | 次のとおり | | | |

午前9時30分 開会

○田原主査 おはようございます。

ただいまの出席は全員であります。定足数に達していますので、これより予算決算審査委員会の総務産業分科会を開会いたします。

プラン・ドゥー・チェック・アクションですか、要するに来年度の予算にも直結することでもありますので、慎重審議をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、議案第80号平成25年度備前市一般会計歳入歳出決算の認定について、きょうは、まちづくり部関係の審査を行います。

20ページをお開きください。

まず、歳入20ページから23ページ、交通安全対策特別交付金と分担金及び負担金までで。

○尾川委員 交通安全対策特別交付金、24年度と比較して減額ですけど、減額理由を教えてください。

○坂本まち整備課長 交通安全対策特別交付金につきましては、道路交通法による反則金の収入を原資として、取扱手数料を控除した額をもとに算定し、年2回交付されるもので、この減額の理由としましては、反則金の原資が減ったものと理解しております。

○尾川委員 原資が減るとというのは、備前署管内のということですか。それとも岡山県警全体の話で、備前市内の人の反則、違反が少なかったということですか。

それと、このところ減額、減額で来とんですけど、違反がないということはいいことですけど、交通安全対策の費用の充当が少なくなるということは、どういうふうにお考えですか。

○坂本まち整備課長 この原資につきましては、全国レベルの話でございまして、全国的に減少しているということで配分が減ったものと思われま。

○尾川委員 その特別交付金をもとに、歳出の関係ですけど、交通安全対策費に恐らくこの金を、色がついとるわけじゃないですからどこに行ったかわからんでしょうけど、これをベースにして交通安全対策の予算というか、その辺の考え方はリンクしとんですか。余りそういうことは考えずにやっとなんですか。

○坂本まち整備課長 基本的に交付金ですので、リンクはしておりませんが、それ以上にやるつもりで予算計上は臨んでおります。

○田原主査 ほかにないようでしたら、次へ進めさせていただきます。

24ページから25ページ、使用料及び手数料に入ります。総務使用料、農林水産業で使用料、土木使用料で、いかがでしょうか。

○山本(恒)委員 住宅使用料で、もう亡くなって3年ぐれえたつとんののに、まだ出てもらえんというたりするようなのは、どねえなことになるんかなあ。今までずっと払ようらなんだ人が亡くなって、2年も3年もたってもまだ出ただけんという。入りてえ人は何ぼでもおるのに。もうちょっと強うに収入をするようにせなんだらいけんのじゃねえん。

○下山まち営業課長 今、委員がおっしゃられる意味といたしますのが、誰もいなくなってもその

まま空き家のまま借りられるという意味でございましょうか。

○山本（恒）委員 はい。

○下山まち営業課長 空き家のままというのは、本当に数例はございます。といいますのが、誰も荷物をとられる方がおられないということで、現在、弁護士がついてやられているというようなケースもございます。その方の資産があるときには、その家賃等も配分になってくるということで、現在もそれは支払うということでの約束で弁護士とも話しております。それ以外に関しましては、そういう部分ではございません。

○山本（恒）委員 そんなこたあなかろう。2口ぐらい娘の名前で借りとったんじゃねえん。そんな感じで、もうお母さんが亡くなって3年ぐれえなつて。わし、入りてえ人がおるから担当のほうへ聞きようつたら、いや、荷物があるから、娘はすぐ同じところへおるが。どねえかせなんだらいけんわ、ほんま。

○下山まち営業課長 具体的な事例があるようであれば、直接私どもに言うていただいて、すぐ調査に入らせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○山本（恒）委員 そりゃあもう職員がよう知つとる、むちゃくちゃ。もうちょっときちっとせなんだらいけんわ。娘がおるんじゃもん。荷物があるだけで、そりゃあ暴力団じゃねえから荷物を捨てられまあけどな、市役所じゃから。娘の人にとってもろうたら1戸あくが、と思うよ。

○下山まち営業課長 再度、調査させていただきまして、そのようなことがないように大至急処理させていただきたいと思えます。

○尾川委員 公営住宅の使用料の収納状況で資料をいただいとんどすけど……。

○田原主査 資料の16、17ページをごらんください。

○尾川委員 全体的な話として、収納率が81.7という数字が出ております。昨年を見ますと、84.2という収納率になつとんどすけど、大体同じような傾向ですけど、この収納率が下がった理由について御説明願います。

○下山まち営業課長 委員御指摘のように、昨年度は84.2%であったのが、ことしは81.7ということでございます。団地別で見ていただいたらわかるかと思いますが、向上している団地もございしますが、減っている団地とか収納率が落ちているという団地も昨年と比べてちょうど半々ぐらいになっております。私どもも原因を突きとめたところ、家賃の高いところ、極端な話をしますと、スワだとかというところが下がっております。それから、やはり金額が高いのが下がりますと、全体の占める割合が非常に多うございまして、収納率が下がってくるというのが大きな原因ではないかというふうに私どもは分析しております。

○尾川委員 結局、収納率上げるために、そんなにこだわりを持つ必要はないかもわからんですけど、そこまで、家賃の高いところという分析をされとつて、それに対して何か手を打たれたり、それから金額だけじゃなしに、要するに対象者の納める収納率になる人の収納率というか、そういった分析はされとんどすか。

○下山まち営業課長 収納率向上におきましては、ことしだけではなくて、以前から委員皆様か

ら御指摘を受けております。当然、入られている方と未納されている方の不公平といいますが、やはり払い損というふうにならないようにということで日夜やっておるわけでございます。収納率が向上するように、口座振替の推進を今まで以上にやっていくということで、課を挙げてやっていくと。口座がないということもございますが、共働きでなかなか銀行だとか、そういうところに行けないという方で納付がおくれているというようなケースも見受けられます。それから、昨今のコンビニ収納というの、やはり今後は検討していかないといけないのかなあというふうを考えておまして、その辺も水道料金等でそれをやっておりますので、今後、私どももやはり視野に入れていかないといけないのかなあということで、払いやすさというものも検討していくというふうを考えております。

○掛谷委員 資料の18ページには団地別の滞納の、3年、5年、5年未満、5年以上とか、人数があります。大抵、毎年同じ方が滞納されているというふうに認識しているわけですがけれども、今のまち営業課長が話をしたコンビニ収納というのは、ぜひ推進してもらいたいというのが一つです。ただし、コンビニにも行かないという、時間的なこととかいろんなことで支払う気があるけれどもそういうことでできていない方と、もう全然その気がないよというような方と、やはり分析をしないと、ただコンビニ収納を始めるだけではいけないんじゃないかと。やることはいいことだと思っております。そういう意味で、しっかりと分析をする中で、どういう方法があるのか。コンビニ収納をすれば、一定の効果が出てくるのか、そういう観点で導入をされてはどうかと思うんですけど、いかがでしょうか。

○下山まち営業課長 委員おっしゃるとおりだと思います。まず、その年度の分の滞納者をつくらないということをまず目標にし、それから過年度分の未納の方を説得して、ちょっとずつでも、分納誓約しておるというのもございますが、やはり分納が途中で守れないというようなケースもございます。公営住宅ということで、強制退去というのはなかなか執行が難しいということもございますので、新しい滞納者をつくらないというのを目標に、現年をしっかりと頑張っていこうという気持ちで頑張っております。今、委員言われたように、そういう分析も当然必要でございますので、今後はそれも含めて検討してまいりたいというふうに思います。

○川崎副主査 決算書の25ページ、駐車場料金208万円ほどですか、出ていますけど、特別会計で駐車場会計があるようですから、そちらに入れる努力はどのようになっているのか。具体的には、旧日生病院跡地、30台か40台ですか、その料金ではないかと推測しとんですけど、やはり過渡的であっても特別会計を設けている以上は駐車場料金はより駐車場の維持管理、充実というんですか、設備増設というんですか、やはりそういう目的で駐車場会計があるとすれば、一般会計のほうへ収入として入れるのは、少し趣旨が違ふし、20万円とか2万円なら目をつぶるといいますか。だけど、金額が200万円となると、相当駐車場会計に占める比重というのは大きいので、過渡的であっても特別会計に入れるべきではないかなあと思えるんですが、その辺はどうでしょうか。

○下山まち営業課長 資料17ページの住宅の駐車場使用料でございますが、あくまでも公営住

宅に入られている方のものということでございますので、これは別ということで御理解願えればと思います。

○川崎副主査 濟いませぬ、勘違い。そうしたら、今、旧病院跡を病院財産から普通財産にかえて、三、四十台分の駐車料金かなと思ったんですけど、ここらの収入はどこへ入るんですか。

○坂本まち整備課長 この駐車場料金につきましては、26年度から特別会計に入ります。

○尾川委員 公営住宅の関係で、今、実際に本当に入れる戸数というのは、全体でええですけど、あと特公賃と、それから公営住宅の稼働戸数というんですか、使おうとしとる戸数というのをちょっと教えてもらったらと。

○下山まち営業課長 現在、備前地域で340戸ございまして、そのうち263戸が入居されております。日生では62戸ございまして、入居は61戸でございます。吉永が67戸ございまして、入居が40戸でございます。

特公賃でございますが、日生に18戸ございまして、現在11、それから吉永のほうに16ございまして、現在13ということでございます。

○尾川委員 前からですけど、同僚議員が今の稼働率というんですか、日生の特公賃が18の11、吉永が16の13、そのあたり何か、もっと満杯にせえという、稼働率というのは特に考えを進めてはいないんですか。今、病院のベッドみたいにちょっと余裕を持っておかにゃあいけんというて置いとんか、それとも入る者がおらんのか、その辺の考え方をちょっと教えて。

○下山まち営業課長 前回、前々回の委員会でもございましたか、副委員長からも住宅の施策ということで、特公賃であいているのをもっと有効利用すればというお話もございました。私ども、余裕で持つとくというのはございませぬ。当然、あかないように、満杯になるようにやるというふうに考えておりまして、きのうまた入居、特公賃に入りました。もう一人入る予定、どちらもスワでございます。そういう部分で、空き家は少なくなっておるわけでございます。この特公賃だけでなく、私ども住宅施策といたしましては、備前市全体で考えて、前にもちょっと申しましたが、家賃補助、新たに備前市へ来たときにそういう借家を借りられるときとか、結婚される方というような限定をして、備前市に住んでいる方に家賃を、その中の一つに特公賃も入るよと。なぜ特公賃のほうの入居が悪いかと申しますと、当然家賃が通常よりも高いということで、通常ぐらいになるような補助ができればということで考えておりまして、来年当初には何とか間に合わせてそういうものを行いたいということで、今現在検討中でございますので、いましばらく時間をいただければというふうに思っております。

○田原主査 ほかにないようでしたら、次へ進めさせていただきます。

26から29ページ、農林水産業手数料、商工手数料、土木手数料で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

30ページから31ページ、災害復旧費国庫負担金で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

32から33ページ、衛生費国庫補助金、農林水産業費国庫補助金、土木費国庫補助金で。

○尾川委員 33ページの土木費国庫補助金の公園事業費補助金、公園施設長寿命化計画策定事業費補助金461万円ほどあるんですけど、これは25年度だけで、あと、そういう事業はないんですか。

○平田まち計画課長 この公園事業費補助金につきましては、公園施設長寿命化計画策定事業というのに対しての補助金でございます、備前市内に都市公園が4つほどあるんですが、これらの長寿命化計画を策定するという業務を25年度中に執行しております、これに対して国から補助金をいただいているものでございます。この計画の策定業務というのは、もう25年度単年で終わっておりますので、今後、この計画に基づいてそれぞれの公園の長寿命化、維持補修を計画的に行っていくというものでございます。

○田原主査 次、36から37ページ、県支出金、県補助金、総務費県補助金で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それじゃあ、39ページの衛生費県補助金、4節環境衛生費補助金で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、農林水産業費県補助金、41ページまで。

○山本（恒）委員 水産業振興補助金2,875万5,000円は、どんなもんですか。

○丸尾産業振興課長 産地水産業強化支援事業補助金といいますと、これは頭島のカキ処理施設、この分でございます。

○田原主査 次、40ページから43ページ、土木費県補助金で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

42ページ、43ページ、災害復旧費県補助金で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、42ページから45ページ、県委託金で。

○尾川委員 45ページ漁業センサス委託金が55万円ほどあるんですけど、これは、去年はなかったような気がするんですが、特にどういう内容で、目的が何で、その結果を何か生かすようなことがあるんですか。その点を説明していただけたら。何か施策に反映したとか。

○丸尾産業振興課長 このセンサスに対する施策でございますが、これをもとに特にこれといった施策等は考えてはおりません。

○山本（恒）委員 45ページの井田農林海岸路線管理委託金というのは、ポンプ場を管理しよう分ですか。

○坂本まち整備課長 これは、農林海岸の草刈りの分でございます。

○山本（恒）委員 ほんなら、堀のへりを草を刈る分。

○坂本まち整備課長 伊里川に沿って農林海岸をずっと、伊里駅のあたりまで草刈りをやるようになっております。

○川崎副主査 井田の防潮堤というんですか、250号の防波堤もそうですよね。井田の入りますよね。結構木が生えて、たまに切っているようなんですけど、木が生えると、何というんですか、

防潮堤を根が崩して海水が入る可能性もあるので、できれば一石二鳥でそういう手間を省くために、あそこは歩道がないんですよ。一段下、海岸線に船着き物揚げ場はあるんだけど、歩行者が歩く歩道らしきものは一切ないですよ。できたら、今、生えている草刈りをしないためにも、北側の調整池のところに、1メートルから最低1.5メートルぐらいの歩道を埋め立てか橋という形でつくれば、非常に歩行者、自転車の方の安全確保に役立つのではないかと常々車で通るたびに思っているんです。やはりこういった20万円程度なので、この金額ではとてもできないわけですが、県にお願いして一石二鳥で経費削減、草刈りの経費削減と歩行者安全を考えたやり方というのは、防潮堤にはぜひ最優先でやってもらいたいと思っているんですが、いかがでしょうか。

○坂本まち整備課長 委員の言うておられるのは、250号沿いの調整池ののり面だと思うんですが、その件につきましては、国道250号で県管理になるんですが、今後そういった要望があるということを県にお願いしていきたいと思います。

○川崎副主査 この20万円には入っていないんですか。

○坂本まち整備課長 入っていません。

○田原主査 次は、46ページ、47ページ、財産収入に入ります。利子及び配当金で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、48ページ、49ページ、財産売却収入で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、50ページ、51ページの繰入金、特別会計繰入金と基金繰入金でございませぬか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、52ページから55ページ、諸収入、貸付金元利収入で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、54から63ページ、雑入で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、歳出に入ります。

78、79ページ、総務管理費、企画費のうち空路利用促進会負担金で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、84から87ページをお願いします。地域振興費の一部。市営バス運行委託料等で。

○山本（恒）委員 この市営バス運行委託、どこの路線のことを言うわけ。

○下山まち営業課長 市営バス運行委託169万7,976円、これは市営バスが運行しております和意谷線と三国東西線に分でございませぬ。

○山本（恒）委員 ほんなら、1日に朝昼晩ぐらい通るんですか。

○下山まち営業課長 和意谷線は週に2日でございませぬ。三国東西線は、スクールバスとの関係がございませぬので、土曜日、日曜日、祭日以外は走っております。

○山本（恒）委員 和意谷は何曜、何曜通るわけ。

○下山まち営業課長 今走っているのは火曜日と金曜日の2便でございます。往復で2便ということでございます。

○山本（恒）委員 これ、地元の人にはたまにしか通らんのじゃから、ようわかっとんじゃな。

○下山まち営業課長 これは、病院の関係とかも含めて、そういうふうな日程で走らせているということでございますが、これに関しましては、全体的な計画で今後見直していくという部分での話が現在進んでいるというふうに考えております。

○尾川委員 85ページ、公共交通システム実証運行計画・評価検証業務委託料。詳しく委託先とか何がどうなったのかというのを教えてもらいたい。

○下山まち営業課長 備前市の公共交通システム実証運行計画及び評価検証業務ということでの委託料288万5,400円でございますが、委託期間は平成25年4月1日から26年3月31日までの1年間。随契約の相手は、バイタルリードということでございます。以前からプロポーザルでそういう業者を決めさせていただいて、25年度は24年にそういうふうになりましたので、引き続き随意契約ということでバイタルリードに業務をお願いしております。当初、409万5,000円ということで委託契約をしておりましたが、途中で補正をさせていただきまして、最終的には今回の金額に変更になっております。

業務内容といたしましては、運行の計画の作成表、運行計画、今後、備前市がどういうふうにしていくかということで、そのときに運行計画を専門的な知識を持ちながらそういう部分をつくっていただいて、私どもの補助をしていただいております。

それから、公共交通会議を昨年も開きましたが、そのときの交通計画の改定作業というものもお手伝いをしていただいております。

また、現況の路線バスの乗降調査ということで、調査に入っていたり、乗車のお客様にヒアリングで、アンケート結果を取りまとめたり。それを私どもに提供していただいております。

それから、あくまでも計画だけじゃなしに利用促進という部分もございますので、皆様のお手元にはないですが、こういう公共交通マップ、バス停が入っているようなチラシをつくっていただいたり、そういう業務をお願いしております。

○田原主査 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

126から127ページの環境衛生費のうち浄化槽の件です。。

○山本（恒）委員 浄化槽設置事業補助金2,921万6,000円、台数がわかるのかな。

○藤森下水道課長 浄化槽43基分です。内訳は、5人槽が10基、7人槽が32基、10人槽以上が1基です。

○山本（恒）委員 大体計画どおり、ちょっと予算より少のうなるような感じ、大体が。

○藤森下水道課長 平成23年度に補助金をかさ上げしたときに一気に62基要望があったので、予算としては毎年60基ずつをいただいております。だんだん少なくなってきました。

○田原主査 よろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、134、135ページ、上水道及び簡易水道費で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、137ページまでの労働費で。

○山本（恒）委員 リフレセンターびぜんの指定管理料1,200万円。これは、下の勤労者センターの指定管理料570万円と比較したら、リフレはむちゃくちゃ人件費が多いような感じがするんですけど。

○丸尾産業振興課長 この指定管理につきましては、3年間分の事業計画ということで、事業計画をもとに3カ年で割っておるものでございます。同じように、リフレと同様に勤労者センターも同じように3年間の指定管理料、計画書を出していただいてそれを3年分で割ったものでございます。ですから、そこが特に人件費がということはないと思います。

○山本（恒）委員 時々昔の職員がおるから寄るんですけど、大抵リフレの場合は2人おることがあるんですけど、平生は1人、2人、そんな感じで、勤労者のほうも、大体あそこは臨時ばかりで正職が4人ほどしかおらんじゃけど、それから比較したら、中で行事がというて言われたら、中は見られんから。平生、何のへんもねえおりには大抵1人のような感じ、2人おるときもありますけど、リフレの場合は。勤労者センターのほうは、大体1人で、あっちへ行ったりこっちへ行ったりするような感じで、ちょっとじっと勉強しようたらおかしいかなあと思うたんじゃけどな。そりゃああんとところが計画書を持ってしょうんじゃから。

○丸尾産業振興課長 確かに、今、委員おっしゃられるとおりですけど、実際リフレセンターと、今の勤労者センターについては、事業範囲が変わってきますので、その関係で人間等の費用ですか、等も変わっております。

○掛谷委員 その下の15工事請負費の中、リフレセンターびぜん屋根改修工事288万円ほど。これ、体育館のほうなのか、事務所のほうなのか、全体なのか。それから、何十%の決算になるのか、その辺をちょっと教えてください。

○丸尾産業振興課長 リフレセンターの屋根改修工事についてでございますが、この屋根につきましては、塗装等が腐食して放置すると屋根に穴があくという状態の中で、昨年度、平成25年度に2階部分の補修を行っております。今年度について、平成26年度につきまして、1階部分の補修を行う予定にしております。

○田原主査 負担割合はどうなるとるかという質問。

○丸尾産業振興課長 負担につきましては、全て市の負担ということでございます。

○田原主査 ほかにないようでしたら、次へ進みます。

136ページから143ページ、農林水産業費で。

○山本（恒）委員 139ページの中山間地域等直接支払制度交付金、これは何団体、地域がわかったら地域も教えていただきたい。

○丸尾産業振興課長 中山間地域等直接支払制度についてでございますが、対象につきましては、現在、14集落が取り組んでおります。その集落でございますが、福田地区、香登京極地区、鶴海の東地区、高下地区、森金地区、原山門地区、佐山の北・門前地区、北尾地区、西の宮地区、亀井戸地区、久保・門前地区、中尾地区、富尾地区、そして寒河地区でございます。

○山本（恒）委員 今の関連で、次に新しく指定とかというのをずっと10年ほど前から言言ったのがようようほんならというたりするような話もあるんですけど、やはりある程度、仕事しよる人に対してやってもらいてえんじゃ。区長さんです、水利ですというて、もってずっとそれを引こずる人で、口は出すけど汗は出さん、知恵は出さんっていう、そねえな人にばあ相談せずに、ほんまにやりよる人にしていただきたい。もう地域を見てもろうたら、ほっちらかして、3年たったらセイタカアワダチソウが生えて、4年、5年たったらやぶみてえな竹がはえて、きれいに地域見たらずっとわかるんじゃから、それでしようところへ、しようところの言ようんじゃから、汗かきよる者に物を言うていただきたいんですけどな。

○丸尾産業振興課長 今、いろんな事業がある中で、中山間地域等直接支払い、これにつきましては、いろんな条件がございます。そうした中で、各地区に対して取り組みをお願いしているわけですが、平成26年度におきましては、多目的機能交付金ですか、こういったものが新たに創設されるということで、農業委員会、各地区について説明会等を行っており、一地区でも取り組んでいけたらというふうに思っております。

○山本（恒）委員 職員が、もう地域見たらわかるんじゃから、ここは全然しょうらん地域とか、草が生えて、もう稲はつきりません、野菜をちょびつとずつつくりよるようなところとか、大体見たらわかりますが。それを職員も見てまわるんじゃから、被害が出た、今の稲刈り前に見たって、ぎょうさん出てくるところはつくつとるところじゃから。つくつてねえところやこう、被害届が出てこんのじゃけえ。それで、こないだうち、物を言うてくれとんじゃろうけど、もう汗かかん人にだけ寄ってもろうて、5人ほど、うちは4反持つとんじゃけえいっこもつくつとりません。もう全然へりの人がウンカが来て困りようりますというような人が出てきてね。しゃあから、その人らあ、自分とこのあぜも刈らんのじゃから。そんな人に出てきてもらわんようにしてもらわなんだら。

○田原主査 わかりますか。要望として。

○丸尾産業振興課長 はい。

○田原主査 次、142ページから147ページ、林業費で。

○山本（恒）委員 145ページの松くい対策というのは、ちいたあ効果が出ようような感じですかな。

○丸尾産業振興課長 この松くいに関しましては、大多府地区に4ヘクタール、地上散布を行っております。効果はあるかということでございますが、毎年続けていることによって少しでも松が残っているというふうな解釈はしております。もしこの散布をやめた場合には、また松の枯れるのが広がっていくのかなあというふうには思っております。

○田原主査 次は、146から147ページ、水産業費で。

○山本（恒）委員 147ページの産地水産業強化支援事業というのは、さっき言った頭島のカキ打ち場の分ですか。

○丸尾産業振興課長 はい、そうです。

○田原主査 ここで休憩に入ります。

午前10時36分 休憩

午前10時51分 再開

○田原主査 休憩前に引き続いて再開いたします。

146ページから153ページ、商工費に入ります。

○尾川委員 いつも言わせてもらってますけど、149ページの岡山セラミックスセンターの運営費補助金のことでですけど、来年の予算も含めて、一般質問でもさせてもらったんですけど、やはり備前市は何ととっても耐火物が中心のまちです。いろいろ新しい企業が来たりして栄枯盛衰ありますけど、地道な力といいますか、やはり耐火物であろうというふうに私は考えております。セラミックスセンターの位置づけ、県とのいろんなやりとりがあつたりして、人件費を持つとかというようなことで、現在は補助金ということで一般質問でもさせてもらいまして、よく御承知と思うんですけども、やはり起業というんですか、仕事を起こす、あるいは技術開発ということで、外観的にはいろんながあるんですけど、もう少しセラミックスセンターの、セラミックスセンター独自も頑張ってもらわなきゃいかんですけど、市としても、やはりサイドからもっと、金だけじゃなしに物心両面支援するという、この行政評価シートの60ページにありますけども、星もようけついて、この星が多いのが貢献度が高いとは思うんですけど、その割には余り注視していないというふうに思うんですが、そのあたりのお考えをお伺いします。

○丸尾産業振興課長 岡山セラミックスセンターについてでございますが、確かにこのセラミックスセンターは、日本の耐火物の研究技術センターとしては唯一の耐火物の公的な研究所ということでございます。そういったところから、特色等を出していただくとともに、関連企業とも協議していきながら、円滑な事業展開という格好で進めていけたらと思っております。

○尾川委員 どうしても検査機関ということで、そういう位置づけだけじゃなしに、その発想から、少し新しいものを開発するとか、御承知のとおり、耐火物協会が商工会議所に吸収というたら言葉が悪いんですけど、どっちか言うたら個人的には、岡山セラミックスセンターにその耐火物協会が、本来、それは耐火物協会が判断してしたことですから、よその者がごじゃごじゃ言うことはないですけど、市としてももう少し、やはり税収の問題から労働者数からいうても、相当の占める割合になつとるわけです。ですから、そういったところの施策というんですか、一つの方角づけというんでも、何らか耐火物協会の存在というものを、やはりセラミックスセンターが関連しておるから、そういった商工会議所でわからんままにというたら語弊もあるんですけど、何か情報を持って市として相談を受けたり、そんな動きはあつたんですか。

○丸尾産業振興課長 市として特に相談等は受けてはおりませんが、今後、より緊密に話し合い

をしていきたいというふうに考えております。

○尾川委員 要するに、アンテナをもう少し市としても立ててもらって、例えば、雇用の問題で、職安の問題なんかは私らは関心を持つとんですよ。労働者数が減ってきて、安定所をもう和気へ統合するとか、そういう話を何回もやってきて、今のところ何とか残っているとんですけど、やはり備前市民にとっては、保健所にしても撤退する、ある程度やむを得ん方向ですけど、やはり必要なものは残していただくという方向で、もう少し視野を広げてもらうてやってほしいというのが、こっちもいろんな面で施策、後手、後手にならんように。例えば、セラミックセンターにしても、全国の検査を受けて、それは市としてOSSをもう少しPRしてあげるとか、私らには配ってこられるんですけど、もっとセラミックセンターの機関紙みたいな物でも、一般市民あるいは市民センターに置くとか、いろんな見方で対応を、大変ですけど広い見方で対応してほしいと。雇用も、安定所の問題、私よう言うんですけど、離職することのない、雇用保険をもらうことのない人は全く関係ないですけど、やはり和気まで行くのか備前でとどまるのかということ、そういった面も総合的にいろんな見方で、これからますますそういったことは進んでくると思うので、大きい視野で、セラミックセンターでもそういう耐火物協会の問題も、そりゃあだんだん力があるようになってきて、ただ、品川リフラクトリーズも西日本事業部に名前も変わって、もう水島とか赤穂の工場の生産量もこっちのデータになってきとるというふうなことなんかも知とられると思う。そういう関心を、情報をとりにいって、もっとOCCも活用する、あるいは備前市が旗振りしてあげて、何か新しいものを手がけていくというふうな、備前焼だけじゃなしに、やはり耐火物というのはなくなることはないと思うんです。そういった考え方で、広い視野で対応してほしいわけですが、ちょっと難しい質問ですけど、御答弁願えたらと思います。

○丸尾産業振興課長 先ほど委員おっしゃられたことを踏まえまして、またセラミックセンターといろんな情報交換をしていけたらというふうに思っております。

○田原主査 セラミックセンターということで話をしていますけれども、質問の趣旨は、耐火物が主産業なんだということの中で、備前市の企業、その他、起業ですよ、起こすことを含めてもう少し頑張れという政策的なことを言うと言われるので、部長、いかがですか。

○高橋まちづくり部長 セラミックは市の基幹産業として非常に重要なものだという認識は十分私どももしておりますし、セラミックセンターの役割についても、その重要性というのは十分認識しております。当初からいいますと補助金もだんだん下がっているのも事実でございます。それとあわせて、運営そのものは試験費等でかなり黒字経営になつとるという実態もございますが、やはり本来の原点に立ち返り、そういう雇用のこと、耐火物協会のこと、全体的な部分で市としてもやはり広い視野を持って今後対応していきたいと。先ほど担当課長が言いましたけども、そういうつもりで今後取り組みたいと思っております。

○掛谷委員 その下の海運振興対策事業補助金140万円、毎年あったと思いますが、この補助目的というものはどういったものを具体的にされているのか、説明をお願いします。

○丸尾産業振興課長 海運振興対策事業につきましては、日生海運に対する補助金でございま

す。この補助金の補助対象事業としましては、組合の経営合理化相談並びに活路開拓の援助支援とか、内港回路の活性化に向けた内港海運制度並びに海運組合員の制度の調査研究、それから船員教育、船員確保のための施策、それから備船料の改善策の検討であるとか、船員災害の防止、安全運航の強化推進といった内容についての補助を行っております。

○掛谷委員 たくさんあるようですけども、その中でも25年度で何か成果があったとか、そういう報告はありますか。あれば教えてください。

○丸尾産業振興課長 特にこれといった成果というのは報告を受けておりませんが、当然、船員教育であるとか船員確保、これに当然必要なわけですから、そういったことに対して、積極的に行っているというふうに考えております。

○川崎副主査 先ほどのセラミック関係ですけど、唯一の研究センターということで、少し勇気が湧いたというか、自信が持ったんですけど、先ほど休憩中にも話したんですけど、住友セメントが三十数%までセメント機能が落ちないので一般廃棄物の主灰なんかをセメント材料に使っていると。製品化してもうけ、逆にその焼却灰を処理するというので、トン当たり3万円幾らで処理していただいているということになると、1日3トン出ると9万円か10万円で、1年間に3,000万円前後の経費が確実に生活が続く限り出ていくということであれば、やはりこういうセラミックということじゃないですけど、耐火れんがというのは千数百度で、やはり鉄よりも強いれんがを耐火れんがということでつくっているわけですから、そういう技術的なものを使えば、ダイオキシン含めて化学合成物質の分解の問題なんかも、それに強い独自の焼却炉というんですか、窯なんかの研究をしていただいて、やはりこの備前市が発信源になって、全国の産廃、一般廃棄物、そういうものの処理費用をより合理的に行えるような研究をやっただけだったらどうかかなあと。それも大きなことじゃないかと。前から私が言っているのは、そういうものを材料にして、魚礁なんかをつくっていただければ、埋立地の問題なんかも解消されるという利点も出てきます。プラス、きょう朝、テレビを見ていると、東北の福島か、花巻か、スペインタイルを日本風のタイルとして、芸術タイルですよ、それでびんときたのは、たしか日生の歩道にもシャコ、エビ、アナゴなど描いたタイルを、たしか埋めていると思うんですね。そういう意味では、耐火れんがにとどまらず、そういうタイルも高温でああいう色をつけてつくっているわけですから、幅を広げて、決してセラミックイコール耐火れんがではないと思うんですね。耐火物というか、タイルなどを含めたものも同じなので、ぜひそういった新しい分野に挑戦できるということか、新しい製品を提案していくという意味では、この研究センターというのはすごく大きな力になるんじゃないかなあと。尾川さんの、そういう意味でもセラミックの位置づけをもっと重要視しろという点では私も大賛成だし、社会的必要性からいっても、産廃含めて、またそういう芸術作品含めて、もっともっと優秀な研究員というか、社会的問題意識を持って、今の社会的需要に合うような研究をやっただけののかなあと、何をやっているのかなあと。単なる情報交換かスパイ合戦をやっているのかなあと。結構ライバル、耐火れんが会社多いですからね。もう少し全ての耐火れんが会社が共同で新しい商品を開発すると。また、産廃なども無害化して、無害化

した材料で新しい製品をつくと、こういった研究をこの300万円ですういう要望を出すというのは弱いかわかりませんが、私はこれにゼロつけて3,000万円つけても、年間でそういう主灰処理費に3,000万円使っているのであれば、それがゼロになるような施設なりそういう処理場の研究なんかも含めてやれるんじゃないかあなど。長年、耐火れんがをつくるということで非常に合理的、費用もかからない方向での研究というのはやっているわけですから、ぜひそういう要望をしていただきたいと思います、いかがでしょうか。

○丸尾産業振興課長 セラミックスセンターに関しましては、セラミックの普及啓発であるとか人材育成、研究開発等を行っておるわけですが、そういった御意見もあるということで、そちらのほうへお伝えしていきたいと思います。

○田原主査 ちょっとかわってください。

〔主査交代〕

○川崎副主査 かわりました。

○田原主査 この380万円、これは県との負担割合で出しとる経費ですよ。

○丸尾産業振興課長 この385万円というのは市の補助です。市の分だけです。

○田原主査 昔は県と日生町も吉永もということで、それぞれが持ち分で負担しとった。そのうちの備前市負担分ということですよ。運営費補助金でしょ。負担金でしょ。

○丸尾産業振興課長 はい。その分については、市のほうからの運営の補助金でございます。

○田原主査 そういう中で、先ほど尾川委員、また川崎副委員長の言われたのは、新たなことを市として政策として追加補助をして、こういうことを研究してくれんかということをお願いしたらどうかということが質問の趣旨に入るとるわけですよ。昔、日生町時代にヨータイさんが焼却炉をつくってやっていこうということで実験炉をつくっていくというような話もありました。それと、今、川崎委員の言われたように、やはり社会的に産廃の問題、そういうようなことを、この備前地区は窯をつくったり耐火れんがをつくったり、そういうノウハウをしっかりとる地域なんですよ。そういうものを具体的に補助金を出して、セラミックスで研究してもらって、新しい起業化をしてはどうか言外にあるということ、単なるこの300万円使っておることだけの問題じゃなしに、やはりこういう議論があるんだということ、しっかり政策として、政策監として話をしてもらいたい。こういうことなんですよ。私からもぜひそういうことで、部長、いかがですか。この金の出入りのことだけじゃなしに、やはり次の政策として、そういうことを提案しとるわけですよ。それについて教えてください。

○高橋まちづくり部長 セラミックに関するいろんな研究、いろんな成果も、私、監事の立場ですけれども、事業計画の中で毎年お聞きします。非常に難しく、我々にはなかなかわかりにくい、科学者といいますか、そういう専門的な分野の成果をお聞きします。そうした中で、よくわからないですけど、非常にすごい研究成果なんだなあというのはいつも感心しながら帰ってくるわけですよ。事その研究につきましては、やはりセラミックが主体でございます。先ほどの部分での開発という部分が、セラミックスセンターでそういうことが可能なのかなのか。そういう

ことも意見としてお聞きしましたので、お話をして、可能であればそういうことも今後考えていきたいと思えます。

○田原主査 よろしくお願ひします。恐らく、市も代表者があの運営会議にも出とるはずですよ。昔、備前焼を使うと水が長もちするとか、それから酒がうまいとかというのを理大のあそこの委員になつた学者さんが一生懸命研究しとった時期がありました。やはり研究者ですから、我々が具体的な提案を、県が事業主体と思ひますけど、そういうところへ提案していくという努力をされたら、研究は向こうがするわけですから、取り入れてくれたらいいわけで、その分の若干の補助金は出しますよという、そういうようなことはぜひ考えていただきたいという要望をして終わります。

○川崎副主査 かわります。

〔主査交代〕

○田原主査 主査に復帰しました。

○掛谷委員 今の関連で、私は岡山県がつくった施設と認識しとります。という意味では、一つは県がどういうふうに主体的にこれを運営するかということが一番肝心であります。そんな中で、備前市はセラミックが、ここへできたのはそういう意味で、ここへつくるのは当然です。ですから、市のほうが、やはり県に対して要望をするということが非常に大事だと思ひています。ただ、要望も三者、やはり当事者のセラミックスセンター、県、市、市は弱い立場に僕はあると思ひますが、しっかりと協議をやつて、どういう方向でセラミックのあり方、センターの研究のあり方、ある程度は語り尽くされとる部分もあると思ひます。ただ、今後、活用については、いつまでも永遠に課題だと思ひんです。そういう意味で、ただ単なる総会をやつて終わるといふじゃなくて、どう活用するかについて皆さんの御意見を聞いて、備前市としてもどういうふうに活用していくかという話し合ひはされておるのかどうか、ただ単に補助金を出しているのかどうか、そこが肝心だと思ひますが、実態はどうなのか、部長にお伺ひしたいと思ひます。

○高橋まちづくり部長 単なる補助金を出して終わりというような形では我々も考えておりません。やはり、補助金を出すことによって、ある程度我々にもそれなりの一定の成果といひますか、それは必要だというような形で考えておりますし、やはりセラミックの活用につきましては、ある程度もう県あるいはセラミックそのものに対しての運営というのはいくらも任せつ放しという部分もあります、確かに。そういう部分の中で、セラミック工業の部分での今後の振興という形で、ある程度私どもも身近に感じられる、そういうふうな位置づけといひますか、それには、やはりある程度いろんな部分での情報共有をしくといふことは当然必要なことだと思ひます。とりあえずできることとして、実態を聞きながら、ある程度私どもの今の意見等もセラミックスセンターのほうへ伝えながら、我々のできることで、それから向こうのほうでお願いしたただけのことなどを整理しながら、今後、セラミックと市とのかかわりがある程度強めてまいりたいと思ひております。

○掛谷委員 部長がおっしゃるとおりで、やっていただきたいと。いわゆる補助金を出したらそ

れで終わりじゃなくて、活用、開発の細かいことは別としましても、どういうふうに現状はやっているのか、こういう要望があるんだとか、いろんな企業があるので、損得の絡みもパテントの関係もあるので、非常に難しいんです。けれども、やはり備前市としてどういうふうな方向で今やっているか、また、こういういろんな意見があるということをぜひ協議会等でしっかり、総会等で終わるんじゃなくて、活用についてのそういうものをもう少し積極的にやられたらいいんじゃないかなと思っていますので、よろしくお願いします。

○尾川委員 関連で、いろいろ議論していただくのはありがたいですけど、やはり備前市、技術的な話で、非常に皆さんわからんから、どうも疎遠になるということも、金さえ出るときゃあええがなという、何%ずつカットじゃから仕方ねえ、800万円、900万円だったのが3,000万円の話も、本当そのぐらいやっても、やはり備前市の将来のうったてになるんですから、ある程度投資していかんやあいかんと思うんです。それから、各営利企業が集まったんですから、いろんな競合するわけで難しさはあるんですけど、向こうとしたら、備前市に対しても期待感というのがあるんですよ、はっきり言って。やはり備前市じゃないとできんということがあるんですよ。OCCだけでできるんじゃなしに、県でできる、まあ県よりも地元、県の産業振興もありますけど、やはり備前市としたら、市の産業振興をどうしていくかということを考えて、やはり雇用も生まれるわけで、あの小さい施設でも1人、2人という話で、ちょっと業務がふえてくれば雇用も生まれてくるわけですよ。そういった面から、やはり新しいものをとにかくつくっていく。真庭なんかがああいうことをやって、一企業がやっていって、市が行政がある程度協力していくというふうな、やはり行政としてできることは何かというのを考えてほしいということです。もう技術的な、そういう耐火れんがの済んだ、4件、5件の会社を相手にするのは大儀なと。でも、実際よう見てください。品川も、もう今言いましたように、西日本事業部になって、もう日生の工場も赤穂の工場もこっちへほとんど集中してきとんです。その辺把握されとんかどうか。赤穂のほうから働きに来よう人、多いと思うんです。私は、備前市に住んでくれえと言うんですよ。そういう情報を持って、どうやっていくかということをやはり、企業立地も、要するに誘致するというのも大切。誘致したら、今度は備前市の人を雇うてくれるかという問題なんかをやはり考えてほしいんですよ。会社はできたわ、市外から人が来たんじゃあ、まあそれでもええんですけどね。ええんですけど、備前市のことだけで考えたら、備前市の人を非正規じゃなしに正規に採用して、きちっと雇用していただくということが大事だと思うんです。そういうふうな、向こうももっと話をしてほしいなあ。備前市が触媒の役割をして、何か新しいものつくっていくようなことになったら、これから10年先、20年先、やはり種殖えだと思うんですよ。

耐火物だっつとずっと同じことをつくつとるわけじゃないんですよ。LEDの話がありましたけど、耐火物でも新しいものをつくったというたら、お礼が1万円か2万円しかねえんです、それでも何億円、何兆円かもわからんですけど、そういう開発をした人もおるわけですよ。だから、決してそんな簡単なもんじゃないので、もう少し視野を広げて、備前市としてどうやって地域の産業を育成していくかということに捉えていただきたいと。難しい、わからん、動けっというん

じゃなしに、もっと懐へ入って、何か新しいものをつくって、あるいはほかの業種との触媒になっ
てもらって、新しい物をつくってほしいと。それも非常に大きい、企業誘致と一緒にだというふう
にも個人的には思っただけですけど、そういうことで位置づけして、本当にああいう研究機関と
いうのは外から見たら遊びようのように見えるんですよ。遊びようというたらまた言葉が過ぎ
るんですけど、やはりある程度、金を通して長い目で見て、研究開発して新しいものつくって
いて、次世代の物をつくっていくというもんがあるわけですから、もう企業でも熾烈な戦いをや
っていますから、その辺を理解してほしいということを、今だけじゃなし、これから先のことを
考えてやってほしい。何度も何度も同じ話して、もっと金は入れられんのかとか、やはり備前市
の運命、いろんな仕事もありますけど、耐火物がメインじゃねえんかと思うんですけど、そうい
う理解してほしいと。ただ監事として行って、総会だけ行って帰るんじゃなしに、もっともっ
と懐へ入って、どうかなあと思う。やはり向こうも備前市というのを、高橋部長誰々じゃなし
に、備前市としての期待感というのがあるわけですから、その点をよろしゅうお願いしたい。

○**田原主査** 関連部署とよく協議をして、対応していただきたいということで次に進めさせてい
ただきたいと思います。よろしく申し上げます。主査のほうからもお願いしておきます。

ほかにございませんか。

○**山本（恒）委員** 151ページの委託料、ずっとここを見ていたらいろいろ既存の施設ばっか
しで、ある程度考え直さなきゃいけないようなところなんかもあるんじゃないかと思われま
す。もう地域にずっと寄つとるし、例えば、大池緑地公園指定管理料175万5,000円の内訳を。

○**森本吉永総合支所長** 大池緑地公園には物産を販売しているところ、それから緑地公園のトイ
レ、あずまやだったり、公園の駐車場などがあります。それらを維持管理してもらって経費でござ
います。

○**山本（恒）委員** この収入はどうなるんですかね。

○**森本吉永総合支所長** 基本的に指定管理でございまして、指定管理していただいている方の
収入になります。

○**山本（恒）委員** ここは、閑谷学校のトンネルを出たところ、あの下にあそこらも管理、ここ
がしとられるんですか。

○**森本吉永総合支所長** トンネルを出たすぐ左側の空き地といいますか駐車場スペース、これ
は、閑谷学校が管理しとられます。

○**山本（恒）委員** ああ、ほんならもう池の管理とそのトイレと駐車場のそこら周りを管理し
ただけですかね。

○**森本吉永総合支所長** 池ではなく、池の上部からの管理になります。駐車場までの管理でござ
います。

○**山本（恒）委員** ほんなら、あそこの喫茶店、三石の人がしょうる、あそこもこの池の管理
になるんですかね。

○**森本吉永総合支所長** はい、そのとおりでございます。

○掛谷委員 151ページ、観光動態調査賃金が21万6,000円。どこが、どこに委託してこういう調査をやられているのかというのが1つと、別冊の委員会資料の34ページに、いわゆる岡山県内の観光客数の推移が網羅されております。そこで、何点かお聞きしたいのは、実は25年の見込みということでしかないんですが、日生・日生諸島が35万台か40万台でずっと推移していたのが、25年が25万人という40%減ですか、この数字がおかしげなのか、もとのこれが本当に実数なのか。我々の備前市の観光のパーセントが、全体にもうぐんと減っているわけです。よそでは110%現状からプラスに転じているところが結構多いですが、この備前エリアは全部マイナスです。その中でも、この日生・日生諸島というのが大きくダウンしていると、この25万2,000ということが気になります。その辺のところをどのように数値を捉えたのか。そして、25年度がこんなにダウンしていることに対して、どのように今後、分析し、今後捉えて頑張っていこうとされるのかお聞きをしたいと思います。

○下山まち営業課長 まず、観光動態調査賃金でございますが、昨年、年3回やっておりまして、4回はやっとなんですけども、年度で言うたら3回になります。そのうち日生、閑谷学校、吉永の八塔寺ふるさと村、そういうところに調査員をお願いしてやっておりまして、その分の賃金ということで上げさせていただいた金額でございます。

次に、一番最後の観光地別の観光の推移ということで、25年の見込みが前年と比べて非常に低いということがございます。これは、調査のやり方等、日によっても非常に違うわけですが、まず、1点、私どもが一番に考えておりますのが、カキオコの一時停滞と。カキオコブームでB-1で非常にいい成績をとって、それなりに初めての方、人気が非常に出て、やはりそういう部分で来客数が非常に多くおったわけですが、若干そういう部分での広まり方が冷えてきたのかなというのが1点。2点目でございますが、ドラム缶事件がございまして、その関係でちょっと敬遠されるというお話も聞いております。そういう関係もありまして減少したということでございます。それから、日生に来て、カキのシーズンに行ってもカキしかない。夏は魚が非常に少ないという御意見がございまして、そういう部分で、観光バスで来られる観光客の方っていうのが以前よりも減るといふふう聞いておりまして、全体的にこういう数字になっているのだというふうと考えております。

魚の関係ではございますが、日生町漁協さんが、伊里漁協の真魚市と同じようなのを月に1遍始めたということで、非常に好評だというふうにお聞きしております。

それから、今回、カキオコのチームが中心になって「ヒナセノミーノ」ということで、ワンコインで飲めたり食べたりするような施策を今月の上旬でしたか、日曜日、初めてやられたというようなことで、非常に好評だったということで、こういうものを私ども、来年、再来年とJRのキャンペーンと一緒に、車じゃなくて電車で来ていただく。電車で来ていただいて滞在時間を長くするようなものを今後検討しておるといふ、それで来客数、滞在期間を伸ばしていただいて、そういう部分での振興を図りたいというふうと考えております。

○掛谷委員 頑張るしかないなというのが感想です。ただ、私はショックを受けました、この数

を見て。閑谷であり、また日生であり、観光のいいところだと思っておりますが、よその地域を見ても、もうアップしているのが多いわけです。ただ、英田岡山国際サーキットが大きなダウンをしておりますが、ほかはもうアップ、アップで、その中で極端にこの備前市が低くなっていることを本当に私は危惧しているわけです。何も担当者が頑張っていないということを言っとるわけではございません。数字に一喜一憂することもないとはいえ、余りのダウン率にびっくりをいたしております。頑張ってくださいということではありますが、今、施策、新たな取り組みも、ノミーノとかということもありますが、根本的にはもう少し、ゼロから出直してというのはちょっと言い過ぎでしょうけれども、それぐらいの気持ちでやっていかないと、挽回できるのかなというふうに思っています。真魚市方式の取り組みもできたら日生も必要かなと思ったり、確かにバスの、何ていうんですかね、停車というか、私が行ったときには本当に昔は多かったなと思いますが、少ないと感じております。そういう意味で、より根本的にこの観光行政を考えていかねばならないと、その辺について部長はどのようにお考えなのか、これを見ながら今後の方向性と感想をいただきたいと思います。

○高橋まちづくり部長 従来、閑谷学校、備前焼で観光客が来られるのは当たり前としてきたということもあるでしょう。そうした中で、先ほど課長が言いましたけども、B-1 グランプリ、カキオコとかいろんなことも模索しながら努力しているのが実態ということで、やはりまたリピーターとなっていただくという新たな施策を考えないと、なかなか従来のままでは誘客は無理かなあというのを、このデータを見たときに率直に思いました。そうした中で、具体的なものとすれば、来年ですか、JRと自治体と一緒に広域的に観光PRをしていくと。やはり一地域じゃなくて、近隣と連携しながら広域的な観光を図っていくというのが、将来につながった安定した誘客につながるものかなということ、先ほど担当課長が言いましたけども、そういうことを考えながら、地域の方と一緒に、地域ともども、行政だけじゃなくて地域の皆さんが来ていただくという、おもてなしの気持ちを皆さんが持っていただくということも今後は重要なことになってくるのかなあというように、このデータを今見て、そう感じました。

○掛谷委員 特に日生関係については大幅ダウン、もう本当に危惧します。ぜひとも日生観光協会、漁業組合等と、日生だけじゃないですけど、日生が特にこうなっているので、しっかりと連携をしていただいて、情勢分析、実態分析、これからの方向を、ぜひとも観光では100%に乗っていくように、ひとつ頑張ってくださいということを申し上げて、もう答弁はそれ以上ないと思えますけど、よろしく願いいたします。

○川崎副主査 観光ということで強調されたんですけど、私は日生に住んでいて、日生の栄枯盛衰というんですか、高度成長期には安くておいしい魚がとれて、諸島の民宿が旅館を含めて非常に、もう土日には定期船がひっくり返るぐらい観光客が乗って、各島の民宿へ行っているのを毎日のように見て育ちました。高度成長が終わって安定に入り、なかなか観光客がふえないという中で、カキオコということで、まさにブームですけど、ブームはいつか終わるとするのは当たり前で、そういう時期が来つつあるのではないかと。もう渋滞がほとんどないですからね。そうい

う意味では、観光客というのは結果であって、やはり地場産業の漁業資源をどう確保するかと。もうカキだけでは半年ですから、残り半年をどうするのかというようなことと言えば、本来のシヤコ、エビ、その他、磯魚のこの瀬戸内じゃないと味わえない魚をいかに加工して魚屋さん、料理屋さんで食べていただくかというのが、これはもう、特に漁業でいえば、中心課題ではないかと。けれども、それにはいろいろな制約があります。現実には、もう底びきが20そうも稼働していない中で、家島漁協の船が毎日のように10隻から15隻入ってきているということで、はっきり言って日生地域の魚ではないです。そういう現状が続いていると。ただ、一つ先ほどの議論の中で、真魚市は日生と何が違うかと言えば、まさに送りの魚、地場ではない、よそから送ってきた魚を売っていると。そういう意味では、高級魚から大きな魚までいろいろあるということが、一つ観光客にとっては非常に買いやすいというか、自分たちの食べたい魚を食べられるという意味では、日生町漁協もいよいよ変わらざるを得ないところまで来とんですけど、ひとつ参考にしてほしいのは、木生のマルナカが海の駅ということで売り出して非常に業績がいいようなことを聞いております。事実、この片上、備前の料理屋さんなりがマルナカで魚を仕入れて、それを料理として出している。何で近くのスーパーで買わないんですかと言ったら、やはり海の駅のほうがよりいい魚が入っているというふうなことを言っていました。そういう意味では、マルナカという大きな巨大資本がよりいい物をより安く売るという点は、それはそれで結構ですけど、逆に真魚市なり日生町漁協は、魚、またカキなどを販売するルートで全国のいろんな市場、漁業との親交があるわけですね。だから、そのメリットを利用して、マルナカの海の駅に対抗できるようにいい物をより早く、安く仕入れて売るということをやれば、私はスーパーに十分対抗できるのではないかなあというふうに考えていますので、本気でそういうことを努力すれば、観光客が何人来ても、その需要に応じられる魚を提供できる可能性は十分残っているんじゃないかというふうに考えております。

やはり地元では限界があるものをよその市場からのいいものを仕入れると。そりゃあ1次産業からすれば邪道だというふうに今まで日生町漁協は考えていた役員さんが多いですけど、いや、もうそうじゃないと、加工品を含めて6次化で生き残りをかけるということであれば、やはりいいものをより安く消費者に提供し、また、地元旅館、民宿などにも鮮度のいい、味のいいものを提供するという点では、やはり日生町漁協も伊里漁協も含めてしっかり応援する体制というのが必要ではないか。今回の予算を見ても、ことしの落成式ですか、頭島のカキ処理場、相当県も力入れていただいてやっているわけで、あとはやはり流通の改善をやっていたら、私はまだまだ日生の知名度というのは結構売れていまして、マルナカが海の駅というタイトルでやっているだけで、何か日生の魚を売っているんだというイメージで来ている方もおられるようなので、ほとんど間違いですけど、そういう消費者心理もあるということは、逆に言えば、そういった消費者の気持ちに合うようなやり方というのを、しっかり観光なり農林水産関係の担当課はやっていただきたいということを要望しておきます。

○下山まち営業課長 ありがとうございます。今、言われましたとおり、観光の担当だけではな

くて、商工という意味合いで、産業振興課並びに旅館組合等も含めたそういう部分で、やはりタイプアップも含めて、官だけではなく民も一緒になっておもてなしということで、究極のまちづくりとうところで頑張っていきたいと思います。

○田原主査 交代して。

〔主査交代〕

○川崎副主査 かわりました。

○田原主査 観光客が減っているというのは大変残念なことだと思います。サンバースフェスティバルもなくなりました。それでは、決算書の151ページ、古代体験の郷指定管理料の件に入りますが、3年前に指定管理ということで地元観光協会が提案をして、プレゼンに参加しながら年間17万円高かったということで、どっかの観光屋に任せただけですけど、当時は大西委員長だったと思うんですけども、実態がああ企業はだめだというような形でいろいろ具体的な例を挙げながら、そのときは、当局は議会の賛成が1人多かったということで、そこへ決めてしまうんですけど、それはそれでしょうがないとしても、何かことしも観光協会は元気を出してプレゼンに参加しようとしたところ、指定管理は今回はもうしないんだということになったようですけども、その辺のいきさつはどうなっているのでしょうか。

○星尾日生総合支所長 この件につきましては、平成24年に観光協会と争ったときに、最高で9年、3年ごとに見直しということで、今回、平成24、25、26年度、来年27年度に継続するかどうかということは、この26年2月の指定管理者選定委員会で認められまして、公募でなくてそのまま非公募でいくということが決定されております。

○田原主査 非公募でいくというて、あなたたちが決めるのはそらあいいですよ。議会であれだけ議論をして、議論が伯仲して、わずか1票差で決まったようなことで、そのときにも、問題があれば中途でもかえられるじゃないですかという、当時の賛成派の議員さんもおったけども、そんなことは実際できるもんじゃないという議論を皆さん聞かれているでしょう。それで、なおかつ非公募ですというのをおかしいんじゃないかと思うんですけども、いかがですか。

○星尾日生総合支所長 私、その会議には入っていなかったんですけど、どういった議論をされたのかというのは承知しておりませんが、そこで決まったことを私ほうは引き続きやっているとごさいます。

○田原主査 当時おられたんじゃないかと思って部長に聞くわけですけども、いかがですか。

○高橋まちづくり部長 私も当時いなかったと思います。

○田原主査 頭島のグラウンドゴルフ場の管理にしても、古代体験の郷の管理にしても、実際うまくいっていないという現実があるわけです。そういう中をあえてそのままの人に、もう指定管理の解約すらせずにするというのをおかしいと。これも一般質問で話をさせてもらいました。その企業は、火事を起こしたじゃないですか。堅穴式住居も燃えてしもうて、それで、補償金は市の金を払った火災保険でその補償をしてもらうということで、その辺のペナルティーもどうかというたら、指定管理の相手先には過失がないということで、向こうへのペナルティーもかけず、

それで、堅穴式住居も、一般質問で聞いたところ、まだ建ててないみたいですね。保険料をねこばばしとんじゃねえかというたら、新しいものを建てんことには保険料は入らんということですが、その辺の事実はどうなんですか。

○星尾日生総合支所長 保険のことにつきましては、建てかえれば490万円程度、もし建てかえなくても保険は出るということで、その場合には320万円ほど出るということで、どうするかというのは今検討中でございます。

○田原主査 これは備前市の観光パンフに載っ取るかどうか知らんけども、少なくとも日生町の当時、あれは観光の目玉、広告塔であったはずですよ。それで、今回、橋がかかる、その橋のかかるいろいろな資料にも、全部、古代体験の郷ということを目玉で監督官庁に協議してきたものですわ。それで、いよいよ橋がかかって、これから観光で今、先ほど掛谷委員さんから観光客が減っているというような中で、そういうような立て直しのときに、どういうふうにするのかということなんですよ。私は、ぜひとも指定管理をそういう過失のあった企業に任せていいのか。日生の観光協会が3年前のとおり、本当に自分たちに頑張ってもらってほしいという意欲があったら任す気があるのかどうか、いかがですか。一切もうせずに、9年間任せてしまうんですか、今の企業に。

○星尾日生総合支所長 まだ最終的な決定は、近日中に委員会を開いてというようなことはありますけど、基本的には業者に継続ということになるのかなとは思っております。

○田原主査 やはり当時の議会議論を参考にもせずに、2月に決めたということを金科玉条のごとくやるというのはおかしいと思います。

それから、この間、内山県議が敬老会に来て、30億円県の金を使うて観光牧場をつくったんじゃないと言ったけど、実際は26億円かな。それを何とか生かしたいというて漁協も言うたりしていますわ。それは、まほろばを使って何とか生かしたいなあということもあるみたいですよ。そんなこと聞いていますか。

○星尾日生総合支所長 その辺はまだ特には聞いておりませんが、あのあたり海洋牧場を設定されて、私個人的には、あそこらに、そういった釣り堀の釣りができるようなところのスペースがあるのかなと、まほろば、今後、橋がつけば船宿的な格好で使っていただけるかなというふうには以前は思っておりました、海洋牧場ができるまでは。そういうような認識でおりました。

○田原主査 そういうことで、とにかく観光施策にとってまほろばをどういうふうに使おうとされとるのか、やめてしまう気なのか。やはり本気で指定管理含めて考えていただきたい。それで、これも一般質問で話をしました。西岡市長のときにも話しましたし、今の市長にも話したと思うんですけども、部長、吉永のふるさと農園にしてもそう、これは山間何とかということでもここへ任せてもらうと、支所に任せ、まほろばも日生支所に任せと。観光施策は本庁でやりましょう。もう地元は何にも、予算もない、観光施策に対しての対抗もない。そんなことを支所に任せて、備前市の観光施策はうまくやっていますというのはおかしいと思う。そういうところにこういうような結果が出るんじゃないかと思うんです。西岡市長の答弁は、次の機構改革の

ときには何とか考えますよと言いながら、そのままやめてしもうて、現状になっただけですけど、やはり本気で観光を考えるなら、やはり支所に任さずにまちづくり部の観光振興の面で捉えて、あそこを有効活用にするべきだと私は再度主張をしたいと思いますが、いかがですか。

○高橋まちづくり部長 支所に任せっ放し、本所で取りまとめ。基本的には支所にしもうちでしようことにしてもかわりはないと思うんですよ。予算はたまたまそういう形でしております。実際の会議は、やはり近いところが一番目の届きやすいところだろうと、実態把握ができるだろうということで、観光行政あるいはまほろばに対する考え方は、支所長も私も同じ考えでありますし、お互いに情報を交換しながら市の観光行政そのものについては支所だけにとらわれず、本庁と連携をしながら進めておりますので、そういうことで御理解賜りたいと思います。

○田原主査 理解はできません。平行線でありますので議論はやめますが、やはりいつまでも堅穴式住居を放置するというのはおかしいと思うし、指定管理についての決定はもう少し慎重にしていたきたいということを要望して、私の委員としての意見は終わります。

○川崎副主査 交代します。

〔主査交代〕

○田原主査 主査に復帰しました。

○川崎副主査 関連で一言。いよいよ4月から橋ができます。となりますと、まず何が変わるかといえば、今まで定期船で、鹿久居島はほとんど行っていないと思います、頭島及び大多府島を中心にいそ釣りの方が今も続いて好きな方はどんどん来ています。今度、橋ができて車なり単車で簡単に鹿久居島に渡れば、鹿久居島の東半分というのは非常に絶好のいそ釣り場です。ですから、当然、まほろばまで今、簡単に歩いて、バイクは行けるのかどうかよく知りませんが、相当いそ釣り客がふえてくる可能性があります、鹿久居島は。となれば、夜釣り、朝釣りをしたい方は宿泊なり寝袋ということになりますと、今まで以上にまほろばの施設は宿泊客がふえる可能性が十分予想されますし、たまたま下に中国自然歩道管理委託料がありますけれども、やはり国立公園で、非常に原生林というんですか、アオサギでしたか、コロニーもあるとか、本当に磯はいろんな魚が釣れる、最もいい保安林のある鹿久居島という点など、やはりもっといろいろ資源的にも再発見していただいて、橋ができた以降の諸島の開発をどうするのかという意味では、今、田原委員が言ったように、もっともっと本庁のほうの政策監なりが中心になって総合支所との連携をとる必要があるんじゃないかというふうに考えてますので、古代体験村として売ることがいいのかどうかは、今までの実績からいえば余りいい結果は出ていませんが、今後は確実に、手軽に安くて時間もかからずに鹿久居島へ渡れるということになれば、間違いなくいそ釣り客と散歩する方、そういう方がふえると思いますので、そこらを重視した開発計画というんですか、観光計画といいますか、ぜひやっていただきたいということも要望しておきます。

○山本（恒）委員 今、もうずっと長い話聞かせてもろうけど、この151ページの委託料、もう既存の施設ばかりで、ずっと取っとるところは日生観光かサメ防護網で、古代体験村とかふるさと村、ねえとこの議員はもう腹が立ってしょうがねえ。そねえなのをもう見直さにやあいけ

ん時期が来とんのに、自分ところの話ばかり、地域の代表じゃから、ええんじゃけど、余りにも今までの既存の施設に格差があり過ぎる。もう10年超えとんじゃから、振り落とすものは振り落としてせなんだら、そりゃあ、もらようところは皆ええわ。もうちょっとどうにかならんじやろうかと思ひます。

○下山まち営業課長 今は観光費のところでございますから、観光地ということになりますと、やはりそういうポジション、ポジションというものがあるかと思ひます。今、委員おっしゃるように、観光地じゃなくて、そういう施設というのは、またちょっと別に考えていただきたいと。新しい観光地を開発するというか、新しくする、テーマパーク化するだとか、そういう部分であれば非常に効果的な部分がありますが、観光費というところでは御理解願えればと思ひます。

○山本（恒）委員 そりゃあ、あんたが担当じゃあからやっちもねえことばあ言ようだけで、普通に職員がずっと考えてみたらじゃな、これ、上から読んだらようねえんじやろうけえど、閑谷学校の駐車場からずっと下まで観光施設があるけど、それを説明してくれえ、どこがどこであります、日生です、吉永です、伊部ですというて。

○下山まち営業課長 151ページの委託料のところでございます。

浄化槽の管理委託料、これは夕立受山……。

〔「伊里です」と呼ぶ者あり〕

だけじゃございません。日生の観光トイレとか、そういう観光トイレが含まれております。これは、全地区というんですか、観光地にありますトイレ等の分でございます。

消防点検、これは、吉永の関係の分でございます。

それから、施設清掃委託料、これはトイレ等でございますので、観光トイレ等の維持管理費ということでございます。

草刈りでございますが、これは夕立受山だとかそういう施設の関連でございますので、これは日生、吉永のほうも入ってまいります。

それから、観光施設維持管理委託料でございますが……。

〔「閑谷はどこなら」と呼ぶ者あり〕

えっ。閑谷学校駐車場等管理委託料……。

〔「それはどこ地区なら」と呼ぶ者あり〕

これは伊里でございます。

〔「伊里か。知らなんだ」と呼ぶ者あり〕

失礼しました。それから、サメの防護網、これは日生の海水浴場の分でございます。

古代体験、これは、先ほどの鹿久居島のものでございます。

中国自然歩道管理委託料、これは八塔寺ふるさと村のほうの遊歩道でございます。

それから、備前焼伝統産業会館、これは、当然伊部の駅、駅舎の分の指定管理料です。

伊部駅南ふるさとセンター、これ、新しくできた部分のほうでございます。

ふれあいの指定管理料、これは日生の分の、「かぜまち」は大多府のほうでございます。それ

から、「しおまち」が頭島のほうでございます。

八塔寺ふるさと館、山荘、これは八塔寺ふるさと村にありますふるさと館の分です。

大池緑地、先ほどありました吉永の入り口のところ、閑谷学校を超えたところです。

○山本（恒）委員 わしがもう出てから、合併してからずっと近隣といっことも平均になつとるところは一つもねえ。してくれえ言うこたあいっこともしてくれんのか。トイレやこうでも、この間のも日生やこう、要らん、要らん、あげえなところへ2つも、1,000万円もかけてしあるいて。そねえなのばあなんじゃ。市民いうたって、力いっぱい言う人はええんじゃけど、わしゃあ、力いっぱいごじゃばあ言ようんじゃけど、そりゃあほんまに職員の人もじゃな、ある程度平均に。今まではこねえに山になつとんじゃけど、これを切つてこっちへ落とすとか、そねえなんせなんたらおえんで、平均にしてくれなんたら。

○高橋まちづくり部長 この施設等につきましては、それなりの評価がございます。その必要性等もその部分で十分検討して、今言われるような形で、我々は絶えず公平・平等というのは、もう大前提でございます。一地区に偏る、たまたまその事業とかそういう形で、年度とか、そういう既存の施設等で偏る場合はありますけれども、基本は平等というのは絶えず頭にありまして、今後におきましても適正な評価をしながら、必要なもの、不必要なものというのは仕分けをしながら進めてまいりますので、そのあたりで御理解していただきたいと思ひます。

○田原主査 休憩に入ります。

午後0時07分 休憩

午後1時00分 再開

○田原主査 休憩前に続きまして会議を再開いたします。

商工費から継続いたします。

○掛谷委員 153ページ、備前焼まつり補助金200万円。毎年話が出ておまして、今後のためということも含めてちょっとお伺いします。

どういったものにお使いになっているのか、詳細がわかりますか。

○下山まち営業課長 予算決算審査委員会資料の35ページに備前焼まつりの収支ということで載っております。そのうち、備前市のほうから補助金として200万円入っております。もうこれで見ただけでわかるかと思うんですけども、私どもが重視させていただいておりますのは、広告宣伝費でございます。いかにお客さんに来ていただけるかということでの分をしっかりと私どもは備前焼まつり実行委員会の中でも言っております。

○掛谷委員 よくわかりました。広告宣伝、広告費というところがほとんどだと認識をいたしました。この中から、またちょっと、一、二点。

出店料・協賛金収入、ここからは、市補助金の対象だけなので踏み込みたくはないですが、ただ、観光の面ということでお聞きをしたい。

陶友会員売台出店料が724万円、平成25年では1テント当たり2日間で幾らだったのか。何テント出店をしておったのか教えてください。

○下山まち営業課長 出店でございますが、私どもが今、聞いておりますのは、2日間で1テント当たり30万円というふうにお聞きしております。実際に陶友会の販売の方、これ、多分割ったら出てくると思いますが、何ぼあったという詳しい内容まではちょっと手持ち資料がございませんので、もし必要であれば、後からでも提示なり報告させていただきたいと思っております。

○掛谷委員 はい、了解。

それと、年々、この出店のテントが、大幅ではないですが、少なくなっているということは、じり貧になりようというふうなことをお聞きしております。平成23年、24年、25年、26年はここでもう少ししたら出るのでしょうか、そのあたりをまた後でいいですが教えていただきたいんです。

もう一つは、次の36ページに、これは200万円とは関係ないのでお聞きするのは心苦しいんですが、自治会駐車場整備に10万円ありますが、このあたりについてわかる範囲で、例えば何人ぐらいがどこの整理をしているのか。ここまで踏み込んでするのがいいかどうかわかりませんが、わかれば教えていただきたい。

○下山まち営業課長 駐車場整備でございますが、駅前、駅裏、その周辺をやっていた部分と、お聞きしておりますのが、金平さんが土地を持っとられます、以前の黒崎炉材の社宅があったところ、ああいうところの整備費用ということでお聞きしております。

出店の数等でございますが、お聞きしておりますのが、ことしのほうがふえたということで、もうこれ以上はふやせないということで、今、計画しとるいっぱいだというふうには聞いております。逆に減ってはいないというふうに聞いておりますので、その辺は間違いないと思っております。

○掛谷委員 平成26年はもう先週終わったわけですけども、感覚的にはですよ、12万人、2日で来ていると。たしか昨年も同じ人数だったと記憶はしております。ただ、去年は雨が降って、でもそれぐらい。ことしは晴天ですね、2日もね。私の記憶ですよ。同じ12万人だったと思いますが、晴天にもかかわらず、前年とことしは同じ人数であるというふうなことです。なかなか分析は難しいんですけども、そのあたりのにぎわいというか、そういうものはどうだったのか、わかれば教えていただきたいと思っております。

○下山まち営業課長 皆様に委員会のごときでも御報告させていただこうと思っておったわけでございますが、先ほど委員言われましたように、2日間で今回は6万、6万の12万人ということで公式発表させていただきました。去年は2日間、言われたように2日目はほとんど朝のほうから雨が降ったということで、これは、合わせて9万人でございました。同数ではございません。ことしは本当に天気も恵まれ、ぼかぼか陽気というか、日が当たるところは暑いぐらいな状況で、冷たい飲み物だとか冷たい食事がよく売れたというふう聞いております。人数的な部分で、見ていただいたらわかるんですが、マイカーとJRの関係はふえたというふう聞いております。ただ、観光バスは去年のほうが多かったということのようです。やはり雨が降ったら駅の2階、3階はよく売れるそうです。逆に出ていかないから。お店のテントのほうは、やはりぬれると。それから、テントのテントの間でぬれる、いろんな部分がありまして、やはり出

入りが少なくなるということで、店舗のほうは少なくなる。だから、逆に、今回は1日目は非常によかったと。2日目は出足は悪かったけども、昼からよくなったと。売り上げに関しましては、まだまだわからないですけども、私の知り合いに数店聞くと、去年と変わらないよと。だから、人はふえておっても、購入費用は余り変わってないのかなあと。私ども、本部テントのところで福袋を売つとるわけですが、福袋の売り上げだけで申しまして、やはり去年よりはふえております。やはり天気がいいと。重たいものを持つ、持たんというのもありましようから、全体的には、やはり来客数がふえれば全体的にはふえているのかなあとというふうには分析しておりますが、今後は陶友会さんもテントを出されたところにアンケートをとるそうです。アンケートというか、聞き取りだと思いますが、売れた、売れんというのはなかなか正直に教えてくれないんだというような前置きをされておりましたけども、そういう部分で実行委員会の最終的な決算等も含めて報告がありやあせんかなあとというふうには考えております。

○掛谷委員 もう一つだけ、出店料・協賛金収入の中で、食の会場出店料、いわゆるこれがテキ屋さん関係になるんじゃないかと思うんですけども、何十店舗ぐらい出して143万円だったのか、おわかりですか。

○下山まち営業課長 陶友会のほうの出店料でございますが、私、間違えてございまして、陶友会のほうは2日間で14万円ということでございます。金額的には51ないし52店ということで、半日というんか、1日のところもあるようで、ちょっときれいには割れないそうです。

それから、食のテントでございますが、これは、場所によって若干値段が違うと。駅のところ、いつも駐車場にしているところは5万円、それから駅前の三角になったところですね、あそこは3万円ということで、約30テント分がしております。それから、陶芸美術館の裏、あそこはもう無料だと。そういう無料のような団体をあそこへやっているというふう聞いております。

○尾川委員 149ページの空き店舗活用事業補助金の10万8,000円、去年はなかったように、見落としがあるかもわからんですけど、補助金、まだ今でもあったんですかね。

○丸尾産業振興課長 これは、空き店舗を利用した形で改装して商売するということの事業に対しての補助金でございます。その補助金については、かかった費用の3分の1ということで補助を出しております。これは、25年度に1件だけありました。

○尾川委員 その補助金制度というのは、まだ生きていますか。今でも。

○丸尾産業振興課長 はい。この補助金は、まだ生きております。あります。

○尾川委員 上限は何ぼですか。

○丸尾産業振興課長 空き店舗活用の件の補助金の交付限度額は100万円でございます。

○尾川委員 それと、評価シートの59ページに、商店街の活性化に対する支援を行うという27年度の取り組み目標を書かれとんですが、るる書いて、いろんな項目もいっぱい入つとんですけど、地元商店の活性化を促進するためということですけど、何か具体的に、なかなか私らも関係しとんでようわかるんですけども、市として新たな対策というんですか、今度、岡山にイオ

ンができて、イオンと勝負するというたって、そりゃあ勝負にならんとは思うんですけど、しかし、買い物難民の問題もあったりして、できれば地元で商店というか、身近なところにやはり歩いていける店というのを商工振興も含めてそういった形のものが、何とか継続していくという考え方が必要だと思うんですが、何か具体的に考えられてこういう文言になっとんですけど、活性化のために支援を行うということで、どんなことを考えられとんですかね、これ。

○丸尾産業振興課長 現段階では、具体的なイベント等は考えてはないですが、これら含めて商工会議所、商工会等と連携を図りながら、イベント等の開催、そういったものを検討していきたいというふうに考えております。

○尾川委員 イベントだけで集客して、それでお客さんが継続してくるかというのは、非常に難しいところで、それじゃあ何をすりゃあええんかっていうことになるんですけど、イベントよりも本質的な商店をどうやって継続していくか、あるいは2代目が何とかしてくれるか、そういった考え方というのは、もう余り研究されたり、よそのどういふところが、どういう商店街がモデルかわかりませんが、そういう捉え方というのは、ただイベントして、何か人を集めて、それでもって集客すると。集客すれば、もしかしてそれだけの価値があるものがあれば、お客としてリピーターとして来てくださるというふうな、そのくらいの発想なんですか。それとも、何か新たなものを考えてやってほしいというのを、あんたもいろいろな仕事いっぱい持って、あれもこれもというわけにやいかんと思うんですけど、そのあたりの考え方をお聞きしたいんですけど。

○丸尾産業振興課長 確かに、おっしゃいますように、イベントといいますと、単に一過性のもので終わるといふことになるかも知れません。そうした中で、継続的に集客が見込めるというんですか、そういった事業が一番いいんですが、なかなかそういった事業がすぐに見つかりませんので、そういった継続的な事業を考えながら、イベント等も検討していきたいと、このようには考えております。

○尾川委員 私も片上商店街にちょこちょこ顔を出したり、いろんなことしとんです。夏の土曜夜市でイベントをしようとか、宝探しをやったり、今度はコスプレやったりするような提案があったりしてやっていきよんですけど、やはり何せ店がもう絶対数がどんどん減ってくるわけです。それは仕方ねえ、時代の流れだというて言やあ済むんですけど、やはり市として、いつも言うように何かしてあげるとか、あるいはアドバイス、もうそりゃあ何十年もかかってここまで来とんですから、シャッター通りということになるんですけど、何かある面、市から金を出さずだけじゃなしに、いろんな面の相談に乗ったり、アドバイスがあったりするようなことをまずは、極端にもっと予算つけてやりやあいけるのかどうかというのもありますけど、そのあたりも、片上だけじゃなしに、いろんなまちがあって、そこに店があったんがどんどんなくなってきて、生活しづらい、買い物できんというような状況になってきて、まち全体が衰退しとるわけですから、そのあたりから一遍何とかいい施策をいろんな勉強をして、研究されてアドバイスしていただけたらなあというふうに。

こっちもこっちでそれなりにけんかしてもって、いろんな形でやろう、やろうということで、そ

それが、じゃあ自分たちの商品の購買につながるかというたら、今までは何かもうかったものを吐き出すような祭りしようったわけですよ。今まで利益蓄積してきたものをある瞬間に出していくというふうなサービスみたいな感じで、そんなことはいつまでも続かんということで、支える人が少のうなってきたら、あと何とか購買につながっていくようなことにしたいなあというのは、考えを持っとんですけど、なかなかうまくいかない。

例として、長野県の諏訪なんかは、祭りをするためには、品物の値段上げて消費税かけると思うんですよ。祭りのときに、それをもう寄附で還元するというようなやり方もやって、そういうことが地域でやれるというの力がある、2代、3代家に住んどって、もういまだによそから行ったらいじめも、よそ者扱い、大変らしいですけど、そういう地域もあつたりするんですけど、そんなことがこらでできる、まねできんと思うんですけど、市に期待ばあしても、自分の力で、特に安倍内閣も何かあんなことを言ようから、よう情報を流しちゃって、補助金で引き継いでいくというんじゃないですけど、アドバイスしてくれたらというふうなお願いかたがた、御意見をお伺いしたいんですけど。

○掛谷委員 今の空き店舗のことで、どこに空き店舗を借りてやるのかということになると、やはりここでは観光振興ですから、片上のまちづくりのところとか、伊部の観光地、または閑谷学校地域とか日生とか、限られると思います。この100万円が上限ですか。100万円がいいのか300万円がいいのか、私はようわからんのですが、ただ、イベントをやって喚起することについては、そんなに異論はありませんけども、大事なことは、1店舗ずつ、1店舗ずつ、本当に階段を一步ずつ登るように、毎年3も4もたくさんは、できりゃいいんじゃないかと思うんです。ですから、ターゲットは、そういうところに絞り込んだ上で、もう少し補助金を出すなり、知恵を出して、例えば、伊部で何かあつても食べる場所がない、非常に高いとかね。例えば、ビアホールをそういうものを伊部の町ですることができたら、今、地球温暖化で暑いですね。バスで来られた人なんかは、そういうのは非常にいいんじゃないかと思います。ただし、これはもう出そうという人がおらんかったら、そりゃあできません。そういう意味で、100万円で自分があそこへ入るといっても、そりゃあなかなか厳しいもんがあると思うんです。ですから、そういうふうにならば、もう少し実体験、実情ですね、どのくらい補助をすれば出てくるのかとか、どういったものが出てくるのが望ましいかとか、そういう本質のところをしっかりと議論をした上で、この空き家対策の観光とかというものをやるべきだと思います。そういう意味で、もうちょっと深いところの議論を、イベントだけというようなことでは、私はなかなかいかんと。ほんならお金をぎょうさん出せというような話になろうかと。いや、出しても、私はそれで本当に空き店舗が1つ、2つ、地域の活性化につながるのであれば、長い目で見た場合は、これは効果があると思います。そういう意味で、もう少ししっかりと深堀りしてもらいたいというふうに思うんですけども、いかがですか。部長、どうですか、その辺は。

○高橋まちづくり部長 実際、本質の部分と今言われました。空き店舗で、実態はどういうふうなのかという把握もちょっとまだ私どものほうでできていないのが実態でございます。そうした

中で、先ほど来、行政の部分での当然方策、支援も大事だと思うんですけども、やはりこの商店街そのものがある程度地域おこしということに取り組む上において、やはり我々も同じテーブルに着くという気持ちはいつでも持っております。そうした中で、いろんな問題とか課題とか抽出していただいて、この空き店舗の活用も含めて、商店街全体の活性化を図るためには何がいいかという本音の部分先ほどのこの本質につながると思うんですけども、やはりそういうことから始める必要があるんじゃないかと思うんですよね。そうした中で、例えば情報としてどこどこがあいているよと。あそこだったら貸してもらえないかとか、そういう話をすることによって、いろんなものが見えてきますし、実現可能になっていくんじゃないかなあと。そうした中で、補助制度に対して、それをもらうがためにしていくというよりも、これをしたいと、こういう目的の達成のために一つの方法としてこういう事業がありますよと。どうも補助をもらうために、それに合わせていくということ自体が、本来、これがしたいという提案をどんどんしていただく。我々も知っとる情報はどんどん提供していくという基本的な姿勢で取り組むことが、まず最初のことかなあと。そうした中で、今後、こういう市の制度の充実、拡張を望むのであれば、我々もより出店しやすいような状況の条例なり、そういう整理の中で最大限の努力をしてまいりたいというような形で考えております。

先ほどの尾川委員の話も含めて、今後、そういう取り組みでいかないとなかなか難しいかなあと。伊部地区ではハード的な整備というのは、道路整備とか、公園の整備とか、そんな形もやっております。やはりそういう取り組みが、片上、あるいは日生、いろんな地域で起こってくれば、我々のまちは我々で何とかしようという、そういう組織化をするのも一つの方法でしょう。そういうような形があれば、行政とすればどんどん声をかけていただければ出ていくつもりはいつでも用意しておりますし、逆に言えば、私どもがそういう段取りをするのがいいのかもわからんですけど、やはり一番最初は自発的に地域の方々に提案していただきたいという気持ちであります。

○掛谷委員 ぜひ市民と協働でやっていくことが大事だと思っています。これは、やはり地域の活性化と雇用とか、そういう面もプラスになっていくと思いますので、よろしくお願いします。

○田原主査 ほかに商工費でございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次は、152ページから153ページ、土木費、土木管理費。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、161ページまでの道路橋梁費、河川費も行きましょうか。

○山本（恒）委員 155ページの負担金補助金及び交付金、道路・河川等ボランティア推進事業補助金193万8,124円というのは、何団体ほどあるん。アダプトじゃろう、これ。

○坂本まち整備課長 これはアダプトじゃあございせん。市がやっておる河川、道路等ボランティア推進事業補助金の分で……。

〔「違うん」と山本（恒）委員発言する〕

はい、違います。25年度の団体数は60団体でございます。

○山本（恒）委員 アダプトとはまた違う団体もあるん。

○坂本まち整備課長 アダプトにつきましては県の事業でございます。一応50団体となっております。

○尾川委員 157ページの交通安全施設整備工事1,981万円、これは中身はあれとして、これは総括でも言おうと思うんですけど、維持管理のほうに、この間、一般質問で私もプールのお話を引き合いに出して、維持管理するということ。通学路の問題なんかもいろいろ要望を聞いてるわけです。それも執行部のほうにお伝えもしたんですけど、そういう維持管理が十分行われていない。来年の予算の絡みですけど、ことしも余り顕著な補正も組んでいないような感じもするし。来年の話をしたらあれですけど、このときもこの中身は別として、やはり適当な維持管理費というのを積極的に予算化してほしいというのをお願いしたいんです。交通安全施設だけに限らず、学校施設についても、どうも見とって、そういった維持管理費、ちょっと修繕したりする費用がおろそかになるというか、なかなか認めてもらえていないという印象があるんですけど、そのあたりの考え方、部長に来年どういうふうに予算査定というか予算の考え方をしてもう既に動いと思うんですけど、ちょっとその辺をぜひお聞かせ願いたいんですけど。

○高橋まちづくり部長 私らの部は、むしろお金を使う部なんですよ。我々は、やはり道路で言いますと、やはり交通安全第一です。通学路含め、一般の交通の安全、これはもう絶えず、これが不十分であれば当然けがとかいろいろな補償問題、あるいは大きな事故につながる大きな要因なので、この部分というのは、もう基本中の基本だと思うんですよ。新設も大事でしょうけども、現在ある施設を安全に使っていただけると、そういう形で、我々担当者としてしましては、最低必要なもの全て積み上げて行って予算要求しております。そうした中で、市の財政状況とかという形で最低限のものに最終的には振り分けて、決して十分な予算とは言いがたい状況になっていると思います。安全というのは、もう切りがないと思いますけども、その中で、我々、担当者としてすれば、最大限予算は要求しておりますし、補正でも要求はその都度していると。現実的には、最終的にこういう結果ですけども、我々はそういう認識で、予算は、また当初予算についても前年度予算というその縛りがありますが、こういう実態はこうですという分を十分説明しながら理解を図っていただいて、最大限の予算を獲得したいというつもりでいつも臨んでおります。

○尾川委員 同じ話になるんですけど、市民としたらやはり身近な道路とかカーブミラーであるとか、そういったことを特に要望する。まして、今は子供たちの通学路というのをかなり神経質というたらまたあれですけど、関心があって、こっちもよく聞くので、何かそのあたり、いろんな、来年度また交付税が減るとか、大きな事業があるということで優先順位をつけられると思うんですけど、やはり最低限のそういった維持管理費というのをしっかり対応していただきたいと思うわけです。その程度しか、お願いしちゃあいけないんですけど、お願いするようなことしか、そういうふうな実態で、来年は少しよく説得していただいて、予算措置をしていただきたいと思っております。

○高橋まちづくり部長 予算がつかんのは私の説明不足、力のなさが、こういう結果になっとなかもわからんですけども、我々としましては、市道にかかわらず農道にしても安全の部分というのは最低限必要な部分はしっかりと説明をして、我々の予算がちょっとでも希望にかなうような形で努力したいと思います。

○田原主査 ほかになれば、次へ進みます。

160ページから163ページ、港湾費へ入ります。

○山本（恒）委員 159ページの上の日生頭島の継続繰り越しは、13億700万円ぐらいというやつは。もう橋がつながったから済んだんじゃない。

○坂本まち整備課長 継続費につきましては、純粋に架橋の分でございます。これは、繰り越す分でございますので、今年度実施するという内容でございます。

○田原主査 26年度に消化したんかという。

○山本（恒）委員 もう、これ、ふえんの。この間つながったから、もう払わにやいけまあ。

○坂本まち整備課長 はい。

○田原主査 次、162ページから165ページ、都市計画費、住宅費も含めます。

○掛谷委員 163ページ、19負担金補助及び交付金、木造住宅耐震診断事業補助金が38万6,000円、何件されたのかということと、この事業そのものの達成感というか、地震が発生するであろう、30年以内に南海トラフが来るとかということがありますが、この原資が幾らで、何件あったのかということを知りたいのと、結局診断をして、リフォームというか、改修工事して耐震補強したというのは何件あるのか、わかりますか。

○平田まち計画課長 今回の決算額38万6,000円の内訳ですが、これ、個人の木造住宅の耐震化について補助金を支給するという事業でございまして、3段階に分かれております。まず、1番に、現況診断をするという耐震診断の業務、それから、診断結果を受けて、今度は補強の設計をするという補強計画という業務、さらに、この計画をもとに工事をするということで、3段階に事業が分かれてございまして、それぞれに補助金があるわけでございます。今回のこの内訳につきましては、最初の耐震診断が8件ございまして、この内訳が、基本的には耐震診断と補強計画というのは料金が一律になってございまして、いずれも4万2,000円ということになっております。これに対しまして、耐震診断は4万2,000円のうち4万円を国と県と市でそれぞれ負担をして補助金を交付してございます。内訳とすれば、4万円のうちの2万円が国、県と市が1万円ずつというような内容になってございます。この4万円のものが7件、それから一定面積を超えますと、これ、200平米以上ですけども、規模が大きくなると、今度は補助金が5万円ということになってきます。これが1件。4万円が7件と5万円が1件で、33万円という金額になってございます。

それから、補強計画のほうが2件ございまして、こちらは4万2,000円の経費に対しまして、補助金の総額が2万8,000円、国が1万4,000円と県と市が7,000円ずつということで、2万8,000円の補助金で、これが2件で5万6,000円、これの合計で38万

6, 000円というような内容になっております。

この住宅の耐震化の補助制度につきましては、合併後、平成17年度から施行をしております、17年度以降の全ての件数を合計をしますと、耐震診断で53件、補強計画で6件、工事のほうは現在までで1件のみという結果になっております。今、国のほうが耐震化ということで、国の施策としてどんどん推し進めているわけで、地方に対しましても早急に耐震化率を引き上げるようにというようなことで、こうした補助制度もあるわけですが、現実にはなかなか思うように進んでいないと。統計調査などの結果を見ましても、備前市での住宅の耐震化率というのは、まだ40%台にとどまっております。最終的には、これを90%まで引き上げるという目標ですけども、現実には非常になかなか厳しいと。やはり耐震化を進めたいと言いながら、最終的には個人の所有物でございますから、お金をかけて耐震化を図るか図らないか、そのあたりは持ち主の方の判断ということにもなってきますし、診断ぐらいなら少ない経費ですけども、いざ工事となれば、やはり数十万円、100万円というような単位のお金がかかってきますので、そういった部分がネックになってなかなか進まないという現状でございます。

○掛谷委員 国がそういう形で進めていますが、情報としては、補助率が上がってくるとか、そういうものは国からの何か新たな上積みというか、そういうのが情報としてはありますか。

○平田まち計画課長 今のところ、国のほうが補助率を上げてくれるというような情報は入っておりません。逆に県などは非常に財政事情が厳しいので、今のところはっきりはしてないですが、この補助金は、もう県のほうから出さないかもしれないといったような話もちらほらあるような状況でございます。

○川崎副主査 163ページの下水道会計の19億4,600万円。まだ何十億円か工事が残るとあるということで続くんでしょうけど、繰出金というのは、もう永遠に続くんですかね。何年度かをめどで、これが5億円に落ちるとかというような財政的な展望というのはどうなっとんでしょうか。ちょっと参考までに。

○藤森下水道課長 この繰出金の主なものは、雨水に関する経費と、それから今まで借りた借金の返済分、借金の返済分は、借りたときから30年で返していきます。例えば、浄化センターを日生でしたら平成5年に供用開始しとんで、30年、そのときの建設費用は30年で償還が終わるということになりますので、永遠に続くということはありません。

○川崎副主査 いつごろまでにこういう金額が続くんかという質問です。

○藤森下水道課長 これは、まだ一番最近、工事も続いとるんで、30年は続きます。ただ、この金額じゃなしに、初期に投資したやつは終わってくるので、徐々に減ってきます。

○川崎副主査 ふえることはないですか。

○藤森下水道課長 更新事業が出てくることはあるんですけども、借金を返す額よりは借りないようにしているので、ふえることはないように努力しています。

○田原主査 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、202から203ページ、災害復旧費に入ります。

○山本（恒）委員 災害というたら1日雨量何ミリ以上を言うん。

○丸尾産業振興課長 災害に関しまして、降水雨量、これは24時間で80ミリ以上、1時間当たりが20ミリ以上でございます。

○山本（恒）委員 この間の18号かは、ほんならうちは対象になつとんかな。

○丸尾産業振興課長 日量80ミリは超えていると思いますので、対象にはなっていると思います。

○田原主査 ほかにないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

最後、204から205ページ、積立金、大ヶ池管理基金、中山間地域保全基金、架橋準備基金、ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

以上で歳入歳出の質疑を終わりますが、総括として何かございましたらどうぞ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、以上で質疑を終結いたします。

前回の分科会、またきょうの分科会の審査内容については、あすの総括で私のほうから発表しますが、漏れにつきましては逐次皆さんのほうから御指摘をお願いしたいと思います。

以上で分科会を閉会します。

御苦労さまでした。

午後1時52分 閉会